

## 我が家の自慢の味にみんな笑顔

### ～第32回つけものフェスティバル～

1月14日(水)、市民会館で『第32回つけものフェスティバル』(同実行委員会主催)が開かれました。

この催しは、日本の食文化である漬物を次世代に引き継いでいくため、毎年開催されているものです。

コンクールは、かすづけ、かすみそづけ、魚づけ、ぬかづけ、玄米づけのほか、ブロッコリーやヤーコンを使用したアイデアづけなどの7部門に、105品の味自慢の漬物が出品されました。

審査は35人の審査員が5人ずつ、7部門に分かれ入賞者を決定。今年は高校生や専門学校生といった若い審査員も初めて加わり、新たな感覚で審査に当たっていました。

コンテスト終了後は、見学者約300人が早速試食し、「シャキシャキと歯ごたえもよく、ほどよい塩加減ね。どうやったらこんなに上手に漬けられるのでしょうか」と感心の声が聞かれました。



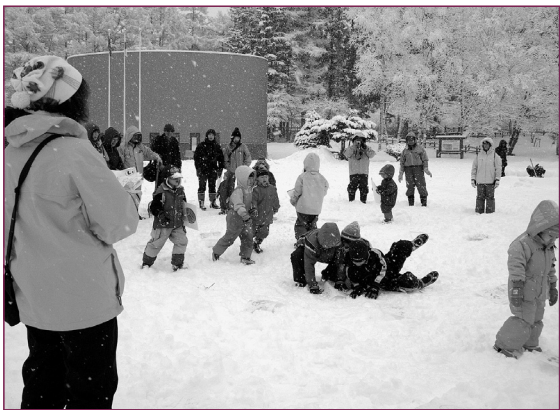
▲表彰式風景



▲審査風景

## 寒さに負けず、雪遊びを満喫

### ～冬休みスペシャルウイーク～



▲新春デカルタ

1月10日(土)から12日(月)の3日間、ふおれすと鉱山で『冬休みスペシャルウイーク』(ふおれすと鉱山主催)が開かれ、425人が訪れました。

この催しは、冬休み期間中のスペシャルプログラムとして、『新春デカルタ』『歩くスキー』『ソリすべり選手権』『ながぐつホッケー大会』『キャンドルナイト』など、冬ならではのたくさんのイベントが行われました。

『新春デカルタ』では、ふおれすと鉱山特製の大きなカルタを雪上に置き、参加者は雪まみれになりながら、カルタが読み上げられるたび、元気に飛び込んでいました。

また、常時行われているソリ遊びやつるつるリンクでは、降りしきる雪の中、子どもたちが冬の寒さに負けず雪あそびを満喫していました。

## 発進せよ、スカベンジャー！！

### ～ロボット製作教室～

1月10日(土)、市民会館で『ロボット製作教室』(社)日本機会学会主催)が開催され、小学生7人が参加しました。

この日は、有線のリモコンでコントロールされる『スカベンジャー』と命名されたごみ分別収集ロボットを製作。ロボットは、手元のリモコンでロボットのアームを操作し、ごみをかきいれて、ごみ箱まで持ち運ぶという本格的なものです。

この日製作されたロボットは、3月15日に予定されている北海道大会に参加することができ、優秀者は3月末に東京お台場で予定されている全国大会へも参加することができます。

子どもたちは、ペットボトルを上下させるアーム部分のギア作りや仕掛けの部分の細かい部品接合に四苦八苦しながらも、大学の准教授など4人のサポートを受けながら、一生懸命製作していました。

